

令和6年度 第2回焼津市デジタル田園都市構想総合戦略推進会議 議事録

1 日 時 令和7年3月14日（金） 10時00分～11時40分

2 会 場 焼津市役所 会議室7A

3 出席委員 太田 隆之委員（静岡大学 人文社会科学部教授）
岸 昭雄委員（静岡県立大学 経営情報学部教授）
木戸 直美委員（静岡福祉大学 子ども学部 講師）
白石 一二朗委員（焼津漁業協同組合 常任理事）
望月 忠委員（大井川農業協同組合 焼津統括支店長）
村松 文次委員（焼津商工会議所 専務理事）
今本 亮委員（大井川商工会 事務局長）
増田 敏和委員（しずおか焼津信用金庫 審議役）
宇江喜 敦司委員（株式会社清水銀行 焼津ブロック支店長）
齊藤 奈津子委員（島田掛川信用金庫 地方創生室長）
川内 十郎委員（株式会社静岡新聞 論説委員）
橋ヶ谷 有沙委員（公募）
吉良 光陽オブザーバー（静岡県中部地域局長）

4 欠席委員 内藤 義晴委員（株式会社静岡銀行 焼津ブロック母店長）
鈴木 正志委員（社会福祉法人焼津市社会福祉協議会 大井川支所長）
飯妻 宏典委員（焼津公共職業安定所 所長）
杉浦 陽斗委員（公募）

5 事務局 石原行政経営部長、角谷行政経営部次長、藤野政策企画課長、DX推進課長、
齊藤政策企画担当主幹、望月政策企画担当係長、原田政策企画担当、
土肥DX推進専門鑑

6 開 会

太田会長の進行により、議事に入った。

7 議 題

(1) 報告 1 「課題への書面ご意見について」

【事務局説明】

資料 1 に基づき説明。

課題 1：不動産価格が社会動態に与える影響

課題 2：若者（特に女性）が働きたいと思う雇用環境

【委員意見】

～課題 1 「不動産価格が社会動態に与える影響」～

◎施策の検討について

委員から、地価は魅力に比例するため、割安感を出すためには補助金などの金銭的な施策しかないが、それでずっと人を惹きつけるのは財政的に難しい。地価と社会動態が密接に結びついているのは明らかだが、施策を考える際には、気を付けて考えた方がよい、との意見があった。

◎焼津への転入者を増やすアピールについて

委員から、焼津は藤枝に比べ津波のリスク分土地価格が安い現状にあるが、土地の安さで押し出すだけでなく、防災への取組など安心感もアピールする方がよい、との意見があった。

～課題 2 「若者（特に女性）が働きたいと思う雇用環境」～

◎若者への政策について

委員から、学生の属性により行動原理が異なるため、ターゲットを絞って色々な政策を打つのが良いのではないかと、との意見があった。

事務局から、ターゲットを絞っていくということは、政策を打っていく上で非常に大事であると認識している。どういう形でデータを収集できるのか、委員の皆様にご相談に乗っていただきたい、と回答した。

◎地元で就職する学生への経済的支援について

委員から、進学に対する奨学金や金融機関のローン返済支援というのも地元に戻ってくる一つの仕掛けになるのではないかと、という意見があった。

事務局から、低所得者に対する奨学金の免除は全国の学生機構で制度があるが、それを超えた形の奨学金について皆さんから様々なご意見いただいたため、検討させていただきたい、と回答した。

◎若者への聞き取りについて

委員から、焼津市に住むこと・働くことの魅力を学生へアピールしたり、インタビュー調査などにより聞いたりすることが重要なのではないかと、との意見があった。

事務局から、今年度策定した「こども・若者スマイルプラン」の計画期間が開始する翌年度までに、若者の施策や広聴の機会をどのようにしていくか、また委員の方にご相談させていただければと思う、と回答した。

◎誘致する企業について

委員から、女性の出産後の再就職先として、子育てする女性に優しいなど、女性が長く働いてくれる企業も誘致するべきではないかと思う、との意見があった。

事務局から、企業誘致先は製造業が主となっているが、若者や若い女性の就職先が変化していることは認識している。企業誘致する上で委員のおっしゃる視点をしっかり持って今後取り組んでいきたい、と回答した。

◎女性への優しさを示す指標設定について

委員から、数値や質的に女性に優しいことをアピールしていくことが重要ではないかと思う、との意見があった。

事務局から、市では市内企業に対し、若い方や女性が働きやすい環境作りを支援する事業を行っている。この事業の実績が一つの指標にできると思うので、検討させていただきたい、と回答した。

◎マグロ加工業への若者の就職について

委員から、焼津の誇るマグロ加工業で日本人の若者の比率が低くなっているため、型破りな政策が必要ではないか、との意見があった。

(2) 報告2「次年度以降の取組方針について」

【事務局説明】

資料2に基づき説明。

【委員意見】

～課題1「不動産価格が社会動態に与える影響」～

◎不動産価格の分析について

委員から、近隣市町の交通環境や生活利便性が同じような条件の不動産価格を調べることで価格差の要因が見え、政策を立てやすくなるため、公示価格や不動産の売買データ等から不動産価格の分析を行ってほしい、との意見があった。

事務局から、きっちりデータは分析していくと回答した。

◎空き家対策について

委員から、海沿いの地区はかなり空き家が増えていくと思うため、対策をしっかりと行ってほしい、との意見があった。

事務局から、空き家対策のためにあるわけではないが、次年度から取組む二地域居住の促進で、ＪＲ焼津駅から中港、新港にかけた市街地を対象区域として考えているため、空き家の利活用等にも繋がると考える。また推進会議で中間報告させていただくため、ご意見をいただきながら推進していきたい、と回答した。

◎海の近くに住み続けている方への意見聴取について

委員から、海の近くに住み続けている住人もいるため、住まない人だけでなく、住み続けている人たちの意見も聞くことで魅力も見えてくると思う、との意見があった。

◎焼津のブランド化について

委員から、今ある釣り、魚の魅力を新しいブランドとして謳っていくかということこそ、価値のバランスが取れてくるのではないかと。

～課題２「若者（特に女性）が働きたいと思う雇用環境」～

◎ここで言う「雇用環境」について

委員から、職種や事業内容、会社の将来性などを見て就職先を決めていると思うので、そこに絞った雇用環境に力を入れるのであればとても良いと思うが、そうでないのなら効果は薄いと考える、との意見があった。

◎ターゲットについて

委員から、雇用環境の整備は、理系の研究者が高度な仕事をする場所を作るなど、ターゲットを絞る方が良いと思う、との意見があった。

（３）報告３「推しまち焼津推進事業について」

【事務局説明】

資料３に基づき説明。

８ 閉 会

オブザーバーから以下の意見をいただき、閉会した。

- ・来年度以降の取り組みとして、不動産価格についてはデータ収集と研究を、若者（特に女性）が働きたいと思う雇用環境については雇用環境課題の洗い出しを、具体的な政策に繋がるよう行ってほしい。